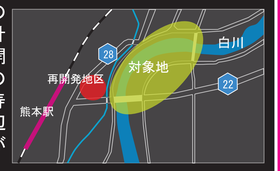
白川橋周辺 河川改修計画

1.BACKGROUND

現在，平成 22 年度の九州新幹線の完成に伴い熊本駅周辺の再開発の計画が進められている．白川橋は再開発事業の範囲には入っていないものの，1960 年に架けられた白川橋の寿命を考えても，新幹線開業，駅周辺の再開発に伴い架け替えの必要性が生じることは十分に考えられる．



2.RESEARCH

2.1 現地調査

現地調査の中で，気付いたことを以下にまとめる．

	左岸	右岸	橋
利点	・河川敷が広い．	・白川の線形，白川橋，阿蘇外輪山に対する良い視点場がある． ・石塘上が広い．	・両岸，川の線形を見ることができる．
問題点	・堤防裏が暗い． ・高水敷に下りづらい． ・親水性が低い． ・橋下が暗い． ・利用者が少ない． ・多目的に使えない．	・石塘の存在感がない． ・坪井川に意識が向かない． ・高水敷が利用しづらい．	・歩道が狭く，風景を楽しむ余裕がない．

2.2 歴史調査

石塘（いしども）

加藤清正によって江戸時代に建設された日本初の背割堤である．石塘の機能は，白川の洪水を緩和することである．

昭和初期までは，石塘上には民家が並び，散歩道としても多くの人に利用されていたが，現在，かつてあった周辺地域との強い繋がりは薄くなっている．

市電（川尻線）

かつて，白川橋上流左岸には市電（川尻線）が走っていた．ここからの風景は美しいといわれており，川尻線は住民に愛されていた．

1953 年と 1957 年の二度の大水害によって膨らんだ赤字と，バスの普及により，1965 年に，住民に反対されながらも廃止された．

花崗山

熊本駅の北北西に位置する花崗山の頂上には，仏舎利，熊本バンド結成の碑，加藤清正ゆかりの兜岩，鐘掛松の跡など，熊本の時代時代をいろどる物等が残っている．

花崗山は熊本の代わりゆく姿を見守り続けた山であり，変わらないものとして生き続けている山である．

3.STUDY

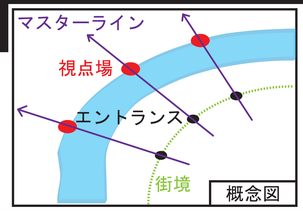
私たちは，現地調査と歴史調査を踏まえて平面図や断面図でスタディを行っていった．

スタディでは，視線と動線に関して議論し，両岸のデザインを決めていった．さらには，廃止された川尻線から，見えたという，美しい風景を左岸堤防上に復活させるため，堤防の高さを上げるという案がでた．

以上のスタディにより固まった案で，スタディ模型を作り，橋のライズ比などを検討した．さらにその際に，周囲の風景との調和がとれているかどうかを確認することができた．

DESIGN CONCEPT

Master Line



私たちは，住宅地の道路を考慮して設けたエントランスと白川橋に対する視点場を結んだラインを「マスターライン」と名付けた．また，このマスターラインは金峰山や花崗山に抜ける景観軸と視点場で交わっている．

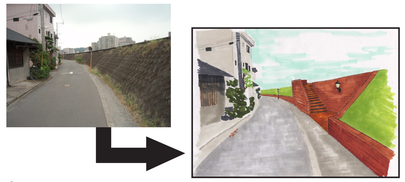
このマスターラインは私たちのデザインの配置を決めるうえで重要な軸となっている．

高水敷ー左岸

住民がもっと川を感じられる河川敷

① エントランスとしての街境

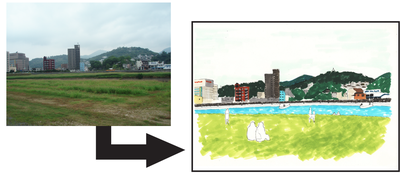
［提案］
住宅地の道路に合わせた階段，歩道を設け，街灯を設置した．



［効果］
①住民が堤防に上がる機会を増やすことができる．
②歩道ができ，整備されることにより，歩行者が安心して歩けるようになる．

② 見晴らしの良い遊歩道

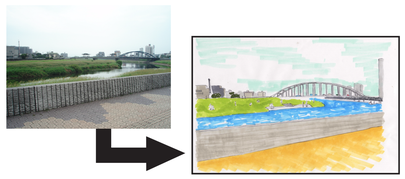
［提案］
堤防の道を現在のパラペット分上げ，幅員を最低限の 3.5m にする．



［効果］
①見晴らしの良い歩道になり，旧川尻線からの眺望を思い起こさせることができる．
②堤防上から川を眺めることができるようになる．
③堤防の幅員を狭めることにより，堤防の裏に歩道を確保することができる．

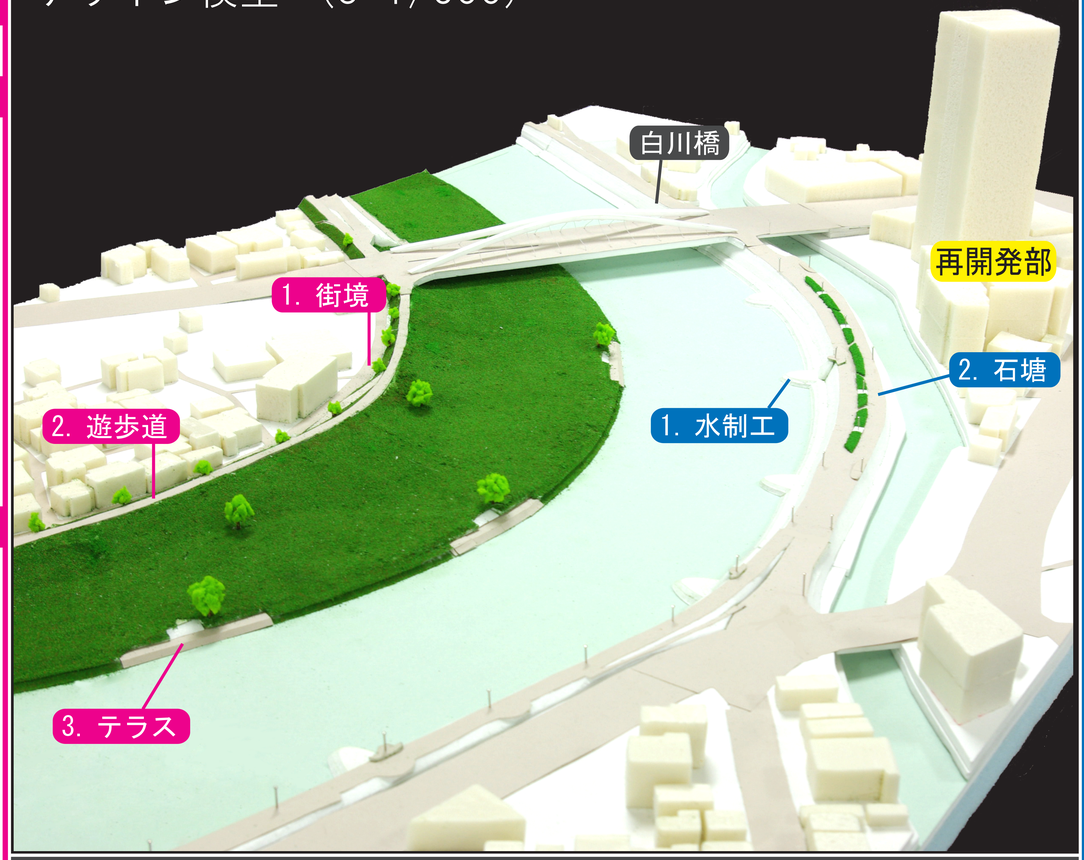
③ 川辺の滞留空間

［提案］
種類の違う勾配を組み合わせて，川が見え，川に近づくことのできる高水敷をつくる．



［効果］
①親水性の高い空間になる．
②遊んだり，寝転んだり，川に近づいたり，さまざまな使い道ができる．
③テラスが川に近づく目印になる．
④テラスの水際は 1:1.25 の傾斜で設計されており，とても座りやすい場所となっている．

デザイン模型 （S=1/500）

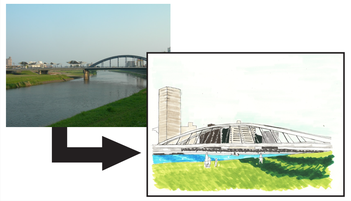


白川橋

両岸の関係性を強める橋

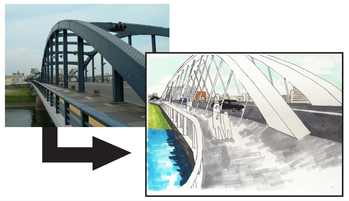
■ アーチ橋

両岸の繋がりの強さを表し，再開発地区のビルに引けをとらないシャープなアーチ橋，石塘と上流左岸を繋ぐ流れを橋の上ではアーチ部材が繋げる．



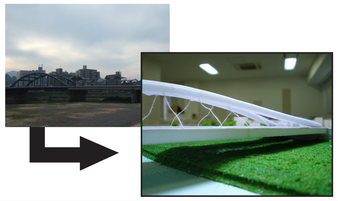
■ 橋詰の線形

石塘上の蛇行する流れを汲み，左岸へ誘導する．ゆったりした幅員の歩道によって，視点場としても機能する．

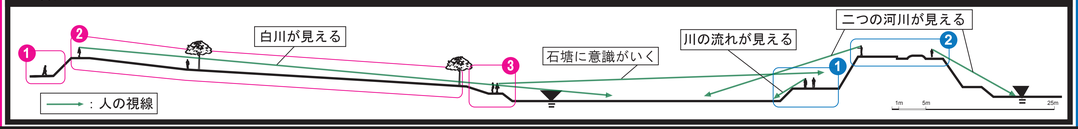


■ 採光部

路面に穴を開けることによって，暗くなりがちな橋下の空間に光が入り，橋下も活動の場とし利用できるようになる．



■ 断面図

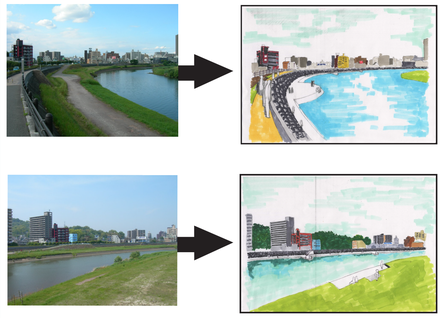


石塘ー右岸

石塘のあるべき姿を取り戻す

① 石塘を守る水制工

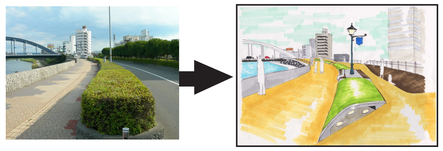
［提案］
高水敷をカットし，水制工を設置する．



［効果］
①背割堤である石塘が，白川，坪井川の二つの河川の流れを制御していることを対岸や橋から視覚的に理解できるようになる．
②高水敷をカットすることによって低下する治水性を水制工によって補う．
③水制工が白川橋を見るための良い視点場となる．
④水制工によって，川へ近づきやすくなるため，親水性の高い空間になる．

② にぎわいのある堤防

［提案］
移動空間と滞留空間を組み合わせる．



［効果］
①人が蛇行するようになり，白川だけでなく，坪井川にも目を向けるようになり，二つの河川に挟まれているということを再発見できる．
②水制工へ続くテラスは，見晴らしが良く，河川空間，町並み，阿蘇外輪山が作るスカイラインを見るための良い視点場になる．
③坪井川を見下ろすスペースは，再開発地区，路面電車などの視点場になる．
④中央に芝やベンチを設置することで緑豊かな歩行者専用道路になる．
⑤人が留まることができ，にぎわいのある場所になる．

Satoshi Inenaga / Motoki Osada / Makoto Kimizu / Kenshiro Kojima / Yudai Nakagawa / Hiroshi Nakata / Taichi Nomura / Ryutaro Matsuo